

# 子どもが望む教師に関する研究

—— 教育学部学生自らが体験した教師を通して ——

長尾 秀夫・伊藤 徹・豊田 ゆかり

川本 和子・山内 栄子

(教育学部障害児教育)

(平成7年9月29日受理)

## はじめに：

教員養成学部としては、子ども、家族、社会が期待している教師を養成していく使命がある。では子ども、家族、社会が期待している教師とは如何なるものであろうか。社会が期待していない教師は暴力をふるう教師、いじめに参加する教師等の極端な例がマスコミ等で取り上げられている。社会が求めている教師については、通常、教師のあるべき姿として教職の中で一般論について指導がなされている。

一方、指導を受ける子どもが希望する教師とはいったい如何なるものであろうか。それを知るためにはどのような方法で情報を収集して教師像をつくっていけばいいのだろうか。学校教育、教職教育を専門としない著者らは、原点に立ち返って教師のあり方を検討し、教師や教職の専門家達に一般の人々の考え方を認識してもらい、教員の養成及び再教育の新たな側面を切り開く契機になるよう問題点を明らかにしたい。

社会の求める教師像について、教育行政の立場からは昭和62年に教育職員養成審議会の答申「教員の資質能力の向上方策について」の中で、教員には教育者としての使命感、人間の成長・発達についての深い理解、幼児・児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養、そしてこれらを基盤とした実践的指導力が必要であると述べている<sup>1)</sup>。その他、教職に関係する多くの書物の中にも同様な一般論が述べられている<sup>2)</sup>。しかし、これらの教師像を学生や現職教員が実像として理解できているかという疑問がある。すなわち、自分の教師としてのあり方を自ら振り返る場合、教職で学習した教師像が実際に使われているだろうかということである。この点については、南本が教師自身の振り返りによる教師の資質について一連の研究を行っている<sup>3)~8)</sup>。

今日までの多くの研究は、教える教師の側から見た教師のあるべき姿や現状であった。専門外の人々の立場で考えれば、学校教育に期待するのは、子どもが健康で個性豊かな人間として、生きる力の基礎を育てることではなからうか。この子育ての援助者の一人として学校教師もいるに過ぎない<sup>9)</sup>。子育てのあり方全体に介入し、指導の押し付けをするのは、援助者の中の一専門家にすぎない教師としては行き過ぎた行為である。逆に、自分の専門家としての役割を果たさぬまま、狭義の専門領域への閉じ込めりも、しばしば援助者の連携に空隙ができてしまうので、一職業人として許されないものであろう。では援助者の一人である教師は如何にあるべ

きであろうか。言うまでもないことであるが、子どもの援助者であることからすれば、子どもの希望、願いが最優先される援助をすることである。教師がいて、子どもがいるのではない。子どもがいて、はじめて一援助者としての教師の存在もあるのだということを自覚すべきである。子どもの援助をするのが教師であることを考えれば、期待される教師は、本来一人ひとりの子どもの希望する教師である。従って、期待される教師像を語るにおいて最も重要なことは、学校の主役である子どもの希望する教師像を明らかにすることである。しかし、今日までの文献を見ると、教育学部の講義や教育実習などを受けて、いわゆるあるべき教師像の教育を受けた後の教育体験レポートや現職教員へのアンケートによる研究がほとんどである。今、医療や福祉の領域ではインフォームドコンセントや自己決定等が問題になって、それぞれの職種での意識改革が積極的に行われている。その中で、社会の子どもに対する認識も、子どもの権利条約の批准を機に変わりつつある<sup>10)</sup>。すなわち、教師は子どもをありのままに受けとめ、子どもの育ちを支える援助者としての専門職であるという、教育関係者の意識改革が望まれる。そして、学校教育そのものも、この潮流に応じて改善していく時期が到来している。

本研究では、子どもが学校の主役であることを自覚し、子どもの希望にかなった教師、学校、教育内容を備えるために、まず教師のあり方を子どもの視点から検討することを目的とした。

## 対 象：

研究の対象は、愛媛大学教育学部の専門教育を原則として受ける前の学生を選んだ。対象とした学生の所属は、平成5年から7年までの3年間の教育学部1回生が男性18名、女性115名の合計133名、2回生が男性12名、女性42名の合計54名、3、4回生が男性4名、女性3名の合計7名、その他に臨時養護学校(精神薄弱教育)教員養成課程の男性3名、女性29名の合計32名、特別専攻科の男性4名、女性4名の合計8名、大学院修士課程の男性1名、女性2名、科目履修生の女性2名の合計45名で、すべての学生を合計すると男性42名、女性197名、総計239名であった。

## 方 法：

教育学部前期の第1回目の講義の時に、対象学生に対して、「私が最もお世話になった先生」について、具体的に5W (who, what, when, where, why) 1H (how) の記述方法で、B4サイズのレポート用紙1枚に書いてくるよう依頼し、1週間後に回収した。なお、テーマについては口頭でも説明を加え、自分の出会った先生について具体的に書くこと、お世話になった先生は尊敬している先生とか、自分が先生になったらあのような先生になりたいと思った先生等の広い意味で理解して欲しいと注釈を加えた。

授業の一貫としてのレポートであったので回収率は100%であった。レポートの分析は南本の教師の資質能力の特徴の分類<sup>4)</sup>を用い、それぞれの学生が書いた教師像の要点を、1枚のレポートにつき1項目以上、4項目以内で当てはまる項目を選んだ。評価に当たっては、著者らがそれぞれ少数例につき基本的分類の試案を作成し、それについて検討した後、3人の著者が独自の判断ですべてのレポートを分析する方法を用いた。

子どもが望む教師に関する研究

表1A：レポートの中の教師の所属と資質能力の特徴（分析者A）

|  | 小学校 |      | 中学校 |      | 高校  |      | 大学 |      | その他 |      | 合計  |      |
|--|-----|------|-----|------|-----|------|----|------|-----|------|-----|------|
|  | 件数  | %    | 件数  | %    | 件数  | %    | 件数 | %    | 件数  | %    | 件数  | %    |
| (1) 専門的知識・技能   |     |      |     |      |     |      |    |      |     |      |     |      |
| 1) 授業で生徒のつまづきや、問題解決で困難な点に的確に対応でき、達成感を味わわせる指導力量がある。     | 12  | 7.2  | 7   | 5.1  | 14  | 9.2  | 1  | 4.5  | 3   | 17.6 | 38  | 7.7  |
| 2) 専門的教科の深い知識と指導案の作成力量がある。                             | 6   | 3.6  | 7   | 5.1  | 12  | 7.9  | 2  | 9.0  | 1   | 5.9  | 28  | 5.7  |
| 3) 生徒の考え方や発想を生かした授業の展開ができる。                            | 10  | 6.1  | 6   | 4.3  | 4   | 2.6  | 0  | 0    | 1   | 5.9  | 21  | 4.3  |
| 4) 生徒が意欲的に取り組み、まとまりのある学級をつくっていただける学級経営の指導力量がある。        | 14  | 8.5  | 8   | 5.8  | 7   | 4.6  | 0  | 0    | 0   | 0    | 28  | 5.7  |
| 小計   | 42  | 25.4 | 28  | 20.3 | 37  | 24.3 | 3  | 13.5 | 5   | 29.4 | 115 | 23.4 |
| (2) 子ども理解能力  |     |      |     |      |     |      |    |      |     |      |     |      |
| 1) 休み時間、生徒の話題に加わったり、身体を使って親しくとけこんでいること。                | 17  | 10.3 | 4   | 2.9  | 5   | 3.3  | 0  | 0    | 1   | 5.9  | 27  | 5.5  |
| 2) 生徒の喜びや悩みに共感できること。                                   | 17  | 10.3 | 19  | 13.8 | 14  | 9.2  | 1  | 4.5  | 0   | 0    | 51  | 10.3 |
| 3) 授業内外で、生徒の興味・関心のある話題に対応できること。                        | 1   | 0.6  | 2   | 1.4  | 4   | 2.6  | 0  | 0    | 0   | 0    | 7   | 1.4  |
| 4) 生徒の能力・個性を客観的に把握・理解できていること。                          | 22  | 13.3 | 19  | 13.8 | 20  | 13.4 | 5  | 22.7 | 2   | 11.8 | 68  | 13.8 |
| 小計   | 57  | 34.5 | 44  | 31.9 | 43  | 28.5 | 6  | 27.2 | 3   | 17.7 | 153 | 31.0 |
| (3) 意欲   |     |      |     |      |     |      |    |      |     |      |     |      |
| 1) 何事も手を抜かず、一生懸命に考え、真剣に実践に打ち込んでいること。                   | 7   | 4.2  | 15  | 10.9 | 18  | 11.8 | 3  | 13.6 | 0   | 0    | 43  | 8.7  |
| 2) 肉体的・精神的な疲労を、ものともしないやる気や情熱。                          | 2   | 1.2  | 4   | 2.9  | 3   | 2.0  | 0  | 0    | 0   | 0    | 9   | 1.8  |
| 3) 自分の実践の改善のために、つねに新しい教育理念・方法・技術を取り入れるように努力していること。     | 5   | 3.0  | 3   | 2.2  | 3   | 2.0  | 0  | 0    | 0   | 0    | 11  | 2.2  |
| 4) 自分の実践の改善のために、進んで学校内外で研究発表等に取り組んでいること。               | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 1  | 4.5  | 0   | 0    | 2   | 0.4  |
| 小計   | 14  | 8.4  | 22  | 16.0 | 24  | 15.8 | 4  | 18.1 | 0   | 0    | 65  | 13.1 |
| (4) 人格的資質  |     |      |     |      |     |      |    |      |     |      |     |      |
| 1) 生徒を教えることで、自分が成長させてもらっているという感謝の気持で、精一杯指導にあたっている。     | 0   | 0    | 3   | 2.2  | 0   | 0    | 1  | 4.5  | 0   | 0    | 4   | 0.8  |
| 2) 問題生徒等に偏見をもたず、その良さを認め、素直な人間的ふれあいをもち、こうした生徒から信頼されている。 | 10  | 6.1  | 7   | 5.1  | 3   | 2.0  | 1  | 4.5  | 3   | 17.6 | 24  | 4.9  |
| 3) 勤務時間外などの家庭訪問もいとわず、親の悩みの相談などに、誠実にのっている。              | 9   | 5.5  | 15  | 10.9 | 18  | 11.8 | 1  | 4.5  | 2   | 4.8  | 44  | 8.9  |
| 4) 指導上の困難を、上司や同僚に相談しながら、スムーズに解決できていけること。               | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0  | 0    | 0   | 0    | 1   | 0.2  |
| 小計   | 19  | 11.6 | 25  | 18.2 | 21  | 13.8 | 3  | 13.5 | 5   | 29.4 | 73  | 14.8 |
| (5) 使命感  |     |      |     |      |     |      |    |      |     |      |     |      |
| 1) 生徒を立派な社会人に成長させていきたい。                                | 0   | 0    | 1   | 0.7  | 1   | 0.8  | 1  | 4.5  | 0   | 0    | 4   | 0.8  |
| 2) 生徒の感情や生活態度の良し悪しは、自分の教育活動からうまるといった、強い責任感で打ち込んでいる。    | 1   | 0.6  | 1   | 0.7  | 2   | 1.3  | 0  | 0    | 0   | 0    | 6   | 1.2  |
| 3) 親に代って、社会（大人）を代表して、生徒の教育を引き受け、よい生き方・学び方を身につけさせている。   | 32  | 19.4 | 16  | 11.6 | 23  | 15.1 | 5  | 22.7 | 4   | 23.5 | 74  | 15.0 |
| 4) 教職に人一倍誇りや生きがいを感じていること。                              | 0   | 0    | 1   | 0.7  | 0   | 0    | 0  | 0    | 0   | 0    | 3   | 0.6  |
| 小計   | 33  | 20   | 19  | 13.7 | 26  | 17.1 | 6  | 27.2 | 4   | 23.5 | 87  | 17.6 |
| (6) その他  |     |      |     |      |     |      |    |      |     |      |     |      |
|  | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0  | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    |
| 総計   | 165 | 100  | 138 | 100  | 152 | 100  | 22 | 100  | 17  | 100  | 494 | 100  |

表1B：レポートの中の教師の所属と資質能力の特徴（分析者B）

|  | 小学校 |      | 中学校 |      | 高校  |      | 大学 |      | その他 |      | 合計  |      |
|--|-----|------|-----|------|-----|------|----|------|-----|------|-----|------|
|  | 件数  | %    | 件数  | %    | 件数  | %    | 件数 | %    | 件数  | %    | 件数  | %    |
| (1) 専門的知識・技能   |     |      |     |      |     |      |    |      |     |      |     |      |
| 1) 授業で生徒のつまづきや、問題解決で困難な点に的確に対応でき、達成感を味わわせる指導力量がある。     | 17  | 9.4  | 16  | 10.1 | 16  | 9.8  | 4  | 12.9 | 0   | 0    | 53  | 9.7  |
| 2) 専門的教科の深い知識と指導案の作成力量がある。                             | 4   | 2.2  | 3   | 1.9  | 8   | 4.9  | 0  | 0    | 1   | 7.1  | 16  | 2.9  |
| 3) 生徒の考え方や発想を生かした授業の展開ができる。                            | 10  | 5.5  | 3   | 1.9  | 4   | 2.5  | 2  | 6.5  | 0   | 0    | 19  | 3.5  |
| 4) 生徒が意欲的に取り組み、まとまりのある学級をつくっていける学級経営の指導力量がある。          | 14  | 7.7  | 6   | 3.8  | 2   | 1.2  | 0  | 0    | 0   | 0    | 22  | 4.0  |
| 小 計  | 45  | 24.8 | 28  | 17.7 | 30  | 18.4 | 6  | 19.4 | 1   | 7.1  | 110 | 20.1 |
| (2) 子ども理解能力  |     |      |     |      |     |      |    |      |     |      |     |      |
| 1) 休み時間、生徒の話題に加わったり、身体を使って親しくとけこんでいること。                | 27  | 14.9 | 21  | 13.2 | 18  | 11.0 | 3  | 9.7  | 2   | 14.3 | 71  | 13.0 |
| 2) 生徒の喜びや悩みに共感できること。                                   | 8   | 4.4  | 16  | 10.1 | 12  | 7.4  | 1  | 3.2  | 2   | 14.3 | 39  | 7.1  |
| 3) 授業内外で、生徒の興味・関心のある話題に対応できること。                        | 7   | 3.9  | 11  | 6.9  | 16  | 9.8  | 3  | 9.7  | 0   | 0    | 37  | 6.8  |
| 4) 生徒の能力・個性を客観的に把握・理解できていること。                          | 25  | 13.8 | 17  | 10.7 | 15  | 9.2  | 3  | 9.7  | 0   | 0    | 60  | 10.9 |
| 小 計  | 67  | 37.0 | 65  | 40.9 | 61  | 37.4 | 10 | 32.3 | 4   | 28.6 | 207 | 37.8 |
| (3) 意 欲  |     |      |     |      |     |      |    |      |     |      |     |      |
| 1) 何事も手を抜かず、一生懸命に考え、真剣に実践に打ち込んでいること。                   | 11  | 6.1  | 18  | 11.3 | 24  | 14.7 | 3  | 9.7  | 1   | 7.1  | 57  | 10.4 |
| 2) 肉体的・精神的な疲労を、ものともしないやる気や情熱。                          | 5   | 2.8  | 5   | 3.1  | 8   | 4.9  | 4  | 12.9 | 0   | 0    | 22  | 4.0  |
| 3) 自分の実践の改善のために、つねに新しい教育理念・方法・技術を取り入れるように努力していること。     | 2   | 1.1  | 4   | 2.5  | 3   | 0    | 0  | 0    | 0   | 0    | 6   | 1.1  |
| 4) 自分実践の改善のために、進んで学校内外で研究発表等に取り組んでいること。                | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0  | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    |
| 小 計  | 18  | 10.0 | 27  | 16.9 | 32  | 19.6 | 7  | 22.6 | 1   | 7.1  | 85  | 15.5 |
| (4) 人格的資質  |     |      |     |      |     |      |    |      |     |      |     |      |
| 1) 生徒を教えることで、自分が成長させてもらっているという感謝の気持で、精一杯指導にあたっている。     | 0   | 0    | 2   | 1.3  | 1   | 0.6  | 1  | 3.2  | 1   | 7.1  | 5   | 0.9  |
| 2) 問題生徒等に偏見をもたず、その良さを認め、素直な人間的ふれあいをもち、こうした生徒から信頼されている。 | 19  | 10.5 | 15  | 9.4  | 8   | 4.9  | 1  | 3.2  | 2   | 14.3 | 45  | 8.2  |
| 3) 勤務時間外などの家庭訪問もいとわず、親の悩みの相談など、誠実にのっている。               | 1   | 0.6  | 5   | 3.1  | 8   | 4.9  | 2  | 6.5  | 0   | 0    | 16  | 2.9  |
| 4) 指導上の困難を、上司や同僚に相談しながら、スムーズに解決できていけること。               | 1   | 0.6  | 2   | 1.3  | 0   | 0    | 1  | 3.2  | 0   | 0    | 4   | 0.7  |
| 小 計  | 21  | 11.7 | 24  | 15.1 | 17  | 10.4 | 5  | 16.1 | 3   | 21.4 | 70  | 12.7 |
| (5) 使命感  |     |      |     |      |     |      |    |      |     |      |     |      |
| 1) 生徒を立派な社会人に成長させていきたい。                                | 7   | 3.9  | 4   | 2.5  | 5   | 3.1  | 0  | 0    | 0   | 0    | 16  | 2.9  |
| 2) 生徒の感情や生活態度の良し悪しは、自分の教育活動からうまるといった、強い責任感で打ち込んでいる。    | 2   | 1.1  | 2   | 1.3  | 6   | 3.7  | 0  | 0    | 2   | 14.3 | 12  | 2.2  |
| 3) 親に代って、社会（大人）を代表して、生徒の教育を引き受け、よい生き方・学び方を身につけさせている。   | 21  | 11.6 | 8   | 5.0  | 12  | 7.4  | 2  | 6.5  | 3   | 21.4 | 46  | 8.4  |
| 4) 教職に人一倍誇りや生きがいを感じていること。                              | 0   | 0    | 1   | 0.6  | 0   | 0    | 1  | 3.2  | 0   | 0    | 2   | 0.7  |
| 小 計  | 30  | 16.6 | 15  | 9.4  | 23  | 14.2 | 3  | 9.7  | 5   | 35.7 | 76  | 13.9 |
| 総 計  | 181 | 100  | 159 | 100  | 163 | 100  | 31 | 100  | 14  | 100  | 548 | 100  |

子どもが望む教師に関する研究

表1 C：レポートの中の教師の所属と資質能力の特徴（分析者C）

|  | 小学校 |      | 中学校 |      | 高校  |      | 大学 |      | その他 |      | 合計  |      |
|--|-----|------|-----|------|-----|------|----|------|-----|------|-----|------|
|  | 件数  | %    | 件数  | %    | 件数  | %    | 件数 | %    | 件数  | %    | 件数  | %    |
| (1) 専門的知識・技能   |     |      |     |      |     |      |    |      |     |      |     |      |
| 1) 授業で生徒のつまずきや、問題解決で困難な点に的確に対応でき、達成感を味わさせる指導力量がある。     | 11  | 6.9  | 13  | 9.6  | 22  | 13.6 | 1  | 5.3  | 2   | 7.1  | 49  | 9.7  |
| 2) 専門の教科の深い知識と指導案の作成力量がある。                             | 3   | 1.9  | 4   | 3.0  | 8   | 4.9  | 0  | 0    | 0   | 0    | 15  | 3.0  |
| 3) 生徒の考え方や発想を生かした授業の展開ができる。                            | 14  | 8.8  | 10  | 7.4  | 5   | 3.1  | 1  | 5.3  | 0   | 0    | 30  | 5.9  |
| 4) 生徒が意欲的に取り組み、まとまりのある学級をつくっていける学級経営の指導力量がある。          | 16  | 10.1 | 9   | 6.7  | 3   | 1.9  | 0  | 0    | 0   | 0    | 28  | 5.5  |
| 小 計  | 44  | 27.7 | 36  | 26.7 | 38  | 23.5 | 2  | 10.6 | 2   | 7.1  | 122 | 24.1 |
| (2) 子ども理解能力  |     |      |     |      |     |      |    |      |     |      |     |      |
| 1) 休み時間、生徒の話題に加わったり、身体を使って親しくとけこんでいること。                | 13  | 8.2  | 5   | 3.7  | 13  | 8.0  | 0  | 0    | 0   | 0    | 31  | 6.1  |
| 2) 生徒の喜びや悩みに共感できること。                                   | 15  | 9.4  | 15  | 11.1 | 12  | 7.4  | 0  | 0    | 6   | 21.4 | 48  | 9.5  |
| 3) 授業内外で、生徒の興味・関心のある話題に対応できること。                        | 6   | 3.8  | 3   | 2.2  | 12  | 7.4  | 0  | 0    | 0   | 0    | 21  | 4.1  |
| 4) 生徒の能力・個性を客観的に把握・理解できていること。                          | 22  | 13.8 | 12  | 8.9  | 13  | 8.0  | 3  | 15.8 | 1   | 3.6  | 51  | 10.1 |
| 小 計  | 56  | 35.2 | 35  | 25.9 | 50  | 30.8 | 3  | 15.8 | 7   | 25.0 | 151 | 29.8 |
| (3) 意 欲  |     |      |     |      |     |      |    |      |     |      |     |      |
| 1) 何事も手を抜かず、一生懸命に考え、真剣に実践に打ち込んでいること。                   | 5   | 3.1  | 8   | 5.9  | 16  | 9.9  | 1  | 5.3  | 1   | 3.6  | 31  | 6.3  |
| 2) 肉体的・精神的な疲労を、ものともしないやる気や情熱。                          | 3   | 1.9  | 4   | 3.0  | 4   | 2.5  | 2  | 10.5 | 1   | 3.6  | 14  | 2.8  |
| 3) 自分の実践の改善のために、つねに新しい教育理念・方法・技術を取り入れるように努力していること。     | 1   | 0.6  | 3   | 2.2  | 4   | 2.5  | 0  | 0    | 0   | 0    | 8   | 1.6  |
| 4) 自分の実践の改善のために、進んで学校内外で研究発表等に取り組んでいること。               | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0  | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    |
| 小 計  | 9   | 5.6  | 15  | 11.1 | 24  | 14.9 | 3  | 15.8 | 2   | 7.2  | 53  | 10.7 |
| (4) 人格的資質  |     |      |     |      |     |      |    |      |     |      |     |      |
| 1) 生徒を教えることで、自分が成長させてもらっているという感謝の気持で、精一杯指導にあたっている。     | 1   | 0.6  | 1   | 0.7  | 0   | 0    | 1  | 5.3  | 1   | 3.6  | 4   | 0.8  |
| 2) 問題生徒等に偏見をもたず、その良さを認め、素直な人間的ふれあいをもち、こうした生徒から信頼されている。 | 16  | 10.1 | 16  | 11.9 | 13  | 8.0  | 2  | 10.5 | 6   | 21.4 | 53  | 10.5 |
| 3) 勤務時間外などの家庭訪問もいとわず、親の悩みの相談など、誠実に行っている。               | 1   | 0.6  | 7   | 5.2  | 7   | 4.3  | 1  | 5.3  | 2   | 7.1  | 18  | 3.6  |
| 4) 指導上の困難を、上司や同僚に相談しながら、スムーズに解決できていけること。               | 0   | 0    | 2   | 1.5  | 1   | 0.6  | 0  | 0    | 0   | 0    | 3   | 0.6  |
| 小 計  | 18  | 11.3 | 26  | 19.3 | 21  | 12.9 | 4  | 21.1 | 9   | 32.1 | 78  | 15.5 |
| (5) 使命感  |     |      |     |      |     |      |    |      |     |      |     |      |
| 1) 生徒を立派な社会人に成長させていきたい。                                | 2   | 1.3  | 0   | 0    | 1   | 0.6  | 1  | 5.3  | 0   | 0    | 4   | 0.8  |
| 2) 生徒の感情や生活態度の良し悪しは、自分の教育活動からうまれるといった、強い責任感で打ち込んでいる。   | 7   | 4.4  | 9   | 6.7  | 10  | 6.2  | 3  | 15.8 | 5   | 17.9 | 34  | 6.7  |
| 3) 親に代って、社会（大人）を代表して、生徒の教育を引き受け、よい生き方・学び方を身につけさせている。   | 23  | 14.5 | 13  | 9.6  | 18  | 11.1 | 3  | 15.8 | 3   | 10.7 | 60  | 11.8 |
| 4) 教職に人一倍誇りや生きがいを感じていること。                              | 0   | 0    | 1   | 0.7  | 0   | 0    | 0  | 0    | 0   | 0    | 1   | 0.2  |
| 小 計  | 32  | 20.2 | 23  | 17.0 | 29  | 17.9 | 7  | 36.9 | 8   | 28.6 | 99  | 19.5 |
| 総 計  | 159 | 100  | 135 | 100  | 162 | 100  | 19 | 100  | 28  | 100  | 503 | 100  |

## 結 果：

3人の分析者によって評価された結果には大きな差があったので、それぞれの分析者（A, B, C）の結果を並記した。

まず初めに、学生が「最もお世話になった先生」としてあげた教師の所属する学校別に教師の資質能力の特徴を検討する（表1 A, B, C）。

小学校の教師では、子どもに親しくとけ込み、生徒の喜びや悩みに共感し、生徒の能力・個性を客観的に把握・理解することなどの子ども理解能力が最も高く評価されていた。また、差別・偏見をもたない人格的資質、良い生き方・学び方を身につけさせる使命感なども比較的高く評価されていた。

中学校の教師でも、小学校の教師と同じく子ども理解能力は最も高く評価されていた。次に、一生懸命考え真剣に打ち込む意欲、良い生き方・学び方を身につけさせる使命感などが評価されていた。

高校の教師でもやはり子ども理解能力が最も高く評価されていた。それについて、生徒に達成感を味わわせる指導の専門的知識・技能、良い生き方・学び方を身につけさせる使命感、一生懸命考えて真剣に実践する意欲などが評価されていた。

大学は件数が少ないが、やはり子ども理解能力と使命感が強調されていた。その他の予備校、家庭教師、施設職員などについて若干の記載があったが、それらは専門的知識・技能、使命感、人格的資質が評価されていた。

レポートを書いた学生の性別によって、教師の資質能力の特徴が異なるか否かを検討した（表2 A, B, C）。その結果、中学校の教師の使命感については男性学生が高く評価していたが、他の項目については分析者による差もあり、性別による一定の傾向はみられなかった。

表2 A：レポートを書いた学生の性別と教師の所属、資質能力の特徴（分析者A）

|              | 小学校 |      | 中学校 |      | 高 校 |      | 大 学 |      | その他 |      | 合 計 |      |
|--------------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|
|              | 件数  | %    |
| (1) 専門的知識・技能 |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
| 男 性          | 6   | 23.1 | 2   | 8.7  | 10  | 33.3 | 0   | 0    | 0   | 0    | 18  | 21.4 |
| 女 性          | 36  | 25.9 | 26  | 22.6 | 27  | 22.1 | 3   | 16.7 | 5   | 31.3 | 97  | 23.7 |
| (2) 子ども理解能力  |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
| 男 性          | 7   | 26.9 | 7   | 30.4 | 8   | 26.7 | 1   | 25   | 1   | 100  | 24  | 28.6 |
| 女 性          | 50  | 36.0 | 37  | 32.2 | 35  | 28.7 | 5   | 27.8 | 2   | 12.5 | 129 | 31.5 |
| (3) 意 欲      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
| 男 性          | 2   | 7.7  | 5   | 21.7 | 1   | 3.3  | 0   | 0    | 0   | 0    | 8   | 9.5  |
| 女 性          | 12  | 8.6  | 17  | 14.8 | 23  | 18.9 | 4   | 22.2 | 0   | 0    | 56  | 13.7 |
| (4) 人格的資質    |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
| 男 性          | 3   | 11.5 | 4   | 17.4 | 4   | 13.3 | 1   | 25   | 0   | 0    | 12  | 14.3 |
| 女 性          | 16  | 11.5 | 21  | 18.3 | 17  | 13.9 | 2   | 11.1 | 5   | 31.3 | 61  | 14.9 |
| (5) 使 命 感    |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
| 男 性          | 8   | 30.8 | 5   | 21.7 | 7   | 23.3 | 2   | 50   | 0   | 0    | 22  | 26.2 |
| 女 性          | 25  | 18.0 | 14  | 12.2 | 19  | 15.6 | 4   | 22.2 | 4   | 25   | 66  | 16.1 |
| (6) そ の 他    |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
| 男 性          | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    |
| 女 性          | 0   | 0    | 0   | 0    | 1   | 0.8  | 0   | 0    | 0   | 0    | 1   | 0.2  |
| 総 計          |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
| 男 性          | 26  | 100  | 23  | 100  | 30  | 100  | 4   | 100  | 1   | 100  | 84  | 100  |
| 女 性          | 139 | 100  | 115 | 100  | 122 | 100  | 18  | 100  | 16  | 100  | 410 | 100  |

表 2 B : レポートを書いた学生の性別と教師の所属, 資質能力の特徴 (分析者 B)

|              | 小学校 |      | 中学校 |      | 高 校 |      | 大 学 |      | その他 |      | 合 計 |      |
|--------------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|
|              | 件数  | %    |
| (1) 専門的知識・技能 |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
| 男性           | 6   | 25.0 | 5   | 22.7 | 5   | 18.5 | 1   | 25   | 1   | 12.5 | 18  | 21.2 |
| 女性           | 39  | 24.8 | 25  | 18.0 | 24  | 17.5 | 5   | 18.5 | 2   | 25   | 95  | 20.3 |
| (2) 子ども理解能力  |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
| 男性           | 7   | 29.2 | 6   | 27.3 | 10  | 37.0 | 0   | 0    | 1   | 12.5 | 24  | 28.2 |
| 女性           | 60  | 38.2 | 59  | 42.4 | 52  | 38.0 | 10  | 37.0 | 2   | 25   | 183 | 39.1 |
| (3) 意 欲      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
| 男性           | 2   | 8.3  | 4   | 18.2 | 4   | 14.8 | 0   | 0    | 2   | 25   | 12  | 14.1 |
| 女性           | 16  | 10.2 | 23  | 16.5 | 28  | 20.4 | 7   | 25.9 | 0   | 0    | 74  | 15.8 |
| (4) 人格的資質    |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
| 男性           | 3   | 12.5 | 2   | 9.1  | 3   | 11.1 | 1   | 25   | 2   | 25   | 11  | 12.9 |
| 女性           | 18  | 11.5 | 22  | 15.8 | 14  | 10.2 | 3   | 11.1 | 2   | 25   | 59  | 12.6 |
| (5) 使命感      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
| 男性           | 6   | 25.0 | 5   | 22.7 | 5   | 18.5 | 2   | 50   | 2   | 25   | 20  | 23.5 |
| 女性           | 24  | 15.3 | 10  | 7.2  | 19  | 13.9 | 2   | 7.4  | 2   | 25   | 57  | 12.2 |
| 総 計          |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
| 男性           | 24  | 100  | 22  | 100  | 27  | 100  | 4   | 100  | 8   | 100  | 85  | 100  |
| 女性           | 157 | 100  | 139 | 100  | 137 | 100  | 27  | 100  | 8   | 100  | 468 | 100  |

表 2 C : レポートを書いた学生の性別と教師の所属, 資質能力の特徴 (分析者 C)

|              | 小学校 |      | 中学校 |      | 高 校 |      | 大 学 |      | その他 |      | 合 計 |      |
|--------------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|
|              | 件数  | %    |
| (1) 専門的知識・技能 |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
| 男性           | 10  | 34.5 | 3   | 15   | 11  | 34.4 | 1   | 14.3 | 0   | 0    | 25  | 26.3 |
| 女性           | 34  | 26.2 | 33  | 28.7 | 27  | 20.8 | 1   | 8.3  | 2   | 9.5  | 97  | 23.8 |
| (2) 子ども理解能力  |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
| 男性           | 8   | 27.6 | 5   | 25   | 3   | 9.4  | 1   | 14.3 | 0   | 0    | 17  | 17.9 |
| 女性           | 48  | 36.9 | 30  | 26.1 | 47  | 36.2 | 2   | 16.7 | 7   | 33.3 | 134 | 32.8 |
| (3) 意 欲      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
| 男性           | 0   | 0    | 3   | 15   | 5   | 15.6 | 0   | 0    | 0   | 0    | 8   | 8.4  |
| 女性           | 9   | 6.9  | 12  | 10.4 | 19  | 14.6 | 3   | 25.0 | 2   | 9.5  | 45  | 11.0 |
| (4) 人格的資質    |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
| 男性           | 3   | 10.3 | 3   | 15   | 7   | 21.9 | 2   | 28.6 | 2   | 28.6 | 17  | 17.9 |
| 女性           | 15  | 11.5 | 23  | 20.0 | 14  | 10.8 | 2   | 16.7 | 7   | 33.3 | 61  | 15.0 |
| (5) 使命感      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
| 男性           | 8   | 27.6 | 6   | 30   | 6   | 18.8 | 3   | 42.9 | 5   | 71.4 | 28  | 29.5 |
| 女性           | 24  | 18.5 | 17  | 14.8 | 23  | 17.7 | 4   | 33.3 | 3   | 14.3 | 71  | 17.4 |
| 総 計          |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      |
| 男性           | 29  | 100  | 20  | 100  | 32  | 100  | 7   | 100  | 7   | 100  | 95  | 100  |
| 女性           | 130 | 100  | 115 | 100  | 130 | 100  | 12  | 100  | 21  | 100  | 408 | 100  |

最後に、レポートを書いた学生の所属を教育学部 1 回生, 2 回生, 3・4 回生, その他に分けて検討した (表 3 A, B, C)。ただし 3・4 回生は対象が少なかったため検討から除外した。全体を通して、子ども理解能力が最も重要な資質能力であると評価し、次に、専門的知識・技能があげられ、その他の 3 項目はそれぞれの間で大差がなかった。学生の所属別では、1 回生は専門的知識・技能よりも意欲をより重視し、2 回生とその他は全体的傾向と同様であった。

表3A：レポートを書いた学生の所属と教師の資質能力の特徴（分析者A）

|              | 1 回生 |      | 2 回生 |      | 3, 4 回生 |      | その他 |      | 合 計 |      |
|--------------|------|------|------|------|---------|------|-----|------|-----|------|
|              | 件数   | %    | 件数   | %    | 件数      | %    | 件数  | %    | 件数  | %    |
| (1) 専門的知識・技能 | 54   | 20.4 | 36   | 30.0 | 6       | 31.6 | 19  | 21.1 | 115 | 23.2 |
| (2) 子ども理解能力  | 75   | 28.3 | 37   | 30.8 | 6       | 31.6 | 35  | 38.8 | 153 | 31.0 |
| (3) 意 欲      | 40   | 15.1 | 11   | 9.2  | 2       | 10.5 | 11  | 12.2 | 64  | 13.0 |
| (4) 人格的資質    | 43   | 16.2 | 19   | 15.8 | 4       | 21.1 | 7   | 7.7  | 73  | 14.8 |
| (5) 使命感      | 53   | 20.0 | 16   | 13.3 | 1       | 5.3  | 18  | 20.0 | 88  | 17.8 |
| (6) その他      | 0    | 0    | 1    | 0.8  | 0       | 0    | 0   | 0    | 1   | 0.2  |
| 総 計          | 265  | 100  | 120  | 100  | 19      | 100  | 90  | 100  | 494 | 100  |

表3B：レポートを書いた学生の所属と教師の資質能力の特徴（分析者B）

|              | 1 回生 |      | 2 回生 |      | 3, 4 回生 |      | その他 |      | 合 計 |      |
|--------------|------|------|------|------|---------|------|-----|------|-----|------|
|              | 件数   | %    | 件数   | %    | 件数      | %    | 件数  | %    | 件数  | %    |
| (1) 専門的知識・技能 | 37   | 14.3 | 40   | 26.8 | 1       | 8.3  | 31  | 25.8 | 109 | 20.2 |
| (2) 子ども理解能力  | 102  | 39.4 | 55   | 36.9 | 4       | 33.3 | 40  | 33.3 | 201 | 37.2 |
| (3) 意 欲      | 44   | 17.0 | 17   | 11.4 | 3       | 25.0 | 20  | 16.7 | 84  | 15.6 |
| (4) 人格的資質    | 37   | 14.3 | 17   | 11.4 | 2       | 16.7 | 14  | 11.7 | 70  | 13.0 |
| (5) 使命感      | 39   | 15.1 | 20   | 13.4 | 2       | 16.7 | 15  | 12.5 | 76  | 14.1 |
| 総 計          | 259  | 100  | 149  | 100  | 12      | 100  | 120 | 100  | 540 | 100  |

表3C：レポートを書いた学生の所属と教師の資質能力の特徴（分析者C）

|              | 1 回生 |      | 2 回生 |      | 3, 4 回生 |      | その他 |      | 合 計 |      |
|--------------|------|------|------|------|---------|------|-----|------|-----|------|
|              | 件数   | %    | 件数   | %    | 件数      | %    | 件数  | %    | 件数  | %    |
| (1) 専門的知識・技能 | 37   | 14.3 | 40   | 26.8 | 1       | 8.3  | 31  | 25.8 | 109 | 20.2 |
| (2) 子ども理解能力  | 102  | 39.4 | 55   | 36.9 | 4       | 33.3 | 40  | 33.3 | 201 | 37.2 |
| (3) 意 欲      | 44   | 17.0 | 17   | 11.4 | 3       | 25.0 | 20  | 16.7 | 84  | 15.6 |
| (4) 人格的資質    | 37   | 14.3 | 17   | 11.4 | 2       | 16.7 | 14  | 11.7 | 70  | 13.0 |
| (5) 使命感      | 39   | 15.1 | 20   | 13.4 | 2       | 16.7 | 15  | 12.5 | 76  | 14.1 |
| 総 計          | 259  | 100  | 149  | 100  | 12      | 100  | 120 | 100  | 540 | 100  |

## 考 察

教師のあり方については、今日までも多くの考え方が報告されている。その主なものが教職教育の中で紹介され、教員養成学部の学生の教師像を形成するのに少なからぬ影響を与えていると推測される。しかし、教師像についての実証的研究は少なく、南本らの一連の研究は数少ない貴重な報告である。彼らは小学校・中学校の教師にアンケート調査を行い、教師の資質能力等についてライフサイクルの視点から検討している。小学校教師の場合<sup>3)</sup>、自らの教師としての資質能力をどの様に評価しているかしてみると、子ども理解能力があるとした者が76%で最も高く、経験年数によってほとんど差がなかった。その他の意欲23%、使命感と専門的知識・技能12%と経験年数が少ない者では低かったが、年齢と共に増加していた。ただ人格的資質の15%はあまり変化がなかった。中学校教師の場合<sup>4)</sup>、自らの資質の中で人格的資質が教職経験4年以内の者でも80%以上で最も高く、さらに経験年数に比例して上昇する傾向があった。次に、意欲は41%、使命感は34%、専門的知識・技能は11%が若い教師にみられ、やはり年齢と共に上昇する傾向があった。他方、子ども理解能力は最も若い教師が75%で最も高く、経験年数が増すと減少する傾向にあった。これらの結果からみると、小学校教師は経験年数を問わ

ず子ども理解能力に自信をもっているが、中学校教師においては年齢と共にそれが低下していた。しかし、中学校教師は人格的資質に非常に高い、意欲に高い自己評価をしていた点が両者の差であった。

一方、教育を受ける子どもの視点からみた教師像についての研究はさらに少ない。文献検索で入手できた研究報告の要点について、以下に簡単なまとめをする。櫛田ら<sup>11)</sup>は小学校5、6年生を対象に好きな先生、嫌いな先生について、自由記述により意見を集め、大学生や現職教員と比較検討している。教師のイメージを分析すると、好きな教師より嫌いな教師について書いたものが多く、嫌いな教師としてはすぐ怒る、差別（ひいき）する、宿題が多いなど、好きな教師としては寛容である、子どもと共に遊ぶ、宿題が少ないなどがあげられ、その他に若い、格好がいいなどの容姿の問題もあげられていたのが特徴的であったと報告している。稲井<sup>12)~14)</sup>は教職希望の学生に理想的教師論を説明した後で、「私に最も影響を与えた教師」というテーマでレポートを課し、それらの一部を抜粋して紹介しつつコメントを加えて報告している。本研究と共通する部分も多いが、稲井の様に理想像を述べた後ではそれに誘導された結果が問題になる。また、渡辺<sup>15)</sup>は教育実習終了後の3回生に対して、「心に残る教師」を自由記述で書くことを求め、そこに表された教師像をポジティブとネガティブに大別して報告している。ポジティブな教師像の中で、幼稚園の先生ではずっと今日まで見守ってくれたとか、小学校の先生では学校外でも共に遊んでくれた、自分のことを真剣に考えてくれた、熱血先生であった、自分を認めてくれた等が多かった。中学校の先生では熱血タイプ、親身になって相談に乗ってくれた、ほめかたがうまかった、授業がおもしろかった、明るくさばさばしていた、自分達をよく理解していた等、高校の先生では受験の時親身になってくれた、教え方がうまかった、苦しいときに声をかけてくれた、共に喜び共に苦しんでくれた等が多かった。ネガティブな教師像では無理解が最も多く、次いで悪い見本、差別（ひいき）、約束不履行、体罰（暴力）、理不尽等があった。そして、ポジティブもネガティブも共に記述された教師との出会いの時期は、小学校5、6年が最も多く、身体的にも成長し、客観的認識や抽象的な思考のできる始めるこの時期の子ども達の教師は、とりわけ影響力が大きいと述べている。

本研究の子ども立場からみた教師像からすると、小学校の教師については子ども理解能力を最も高く評価しており、南本の小学校教師<sup>3)</sup>の自己評価とうまく重なっていたが、意欲は教師が思っているほど子どもは評価していなかった。中学校の教師についても子ども理解能力を最も高く評価し、次いで専門的知識・技能を評価していたが、南本の調査<sup>4)</sup>によれば、教師自身は人格的資質を最も高く評価し、次いで子ども理解能力などが出てきて、専門的知識・技能は最も低く評価していた。子どもと教師の意識が最も違っていた人格的資質について、教師の自信は子ども達に必ずしも通じず、時に過信となって子ども達に押しつける結果となっていないか危惧される。高校の教師についても、子ども達は子ども理解能力を最も高く評価し、さらに専門的知識・技能や意欲も評価する者が増えていた。大学と予備校その他の教師ではそれに加え、専門的知識・技能、人格的資質、使命感などの評価が高くなっていた。以上の結果は分析者により若干の差はあるものの、子どもの立場からすれば、子ども理解能力が最も重要な教師の資質と考えていることが明らかとなった。従って、子ども理解能力こそ教師像の中心に置くべきものと考えられる。

以上をもとに、著者らが考えた教師のあり方について、著者の一人の試案（図）を使って論じる。この図でも明らかなように、教師も一人の人間として精神的、身体的健康が土台にあり、

その上に人間性、教育への意欲、使命感などが備わっていることが教師の基礎的資質であることは言うまでもない。それらの基礎の上に大学を卒業して教員免許状を有していることは、通常の教師が現在備えている必要条件である(1)。そして、教師として自己学習していかなければならないものとして、まず最初にあげられるものは各教科等の一般的指導法の習得である。それは指導書等の基本的指導技術を学習し、教材を作成して授業を行うことである(2)。次にあがってくるものとしては、自分の専門領域を深く学習して、知識を蓄積し、個性的な指導を展開できる段階である(3)。そして、連続的なものではないが、非常に大切なものとして、一人ひとりの子どもの状態に適時合わせて指導できる経験を積むことが特に重要である(4)。さらに、これらの各分野が充実するためには、自らの指導を振り返り、自らの指導を学問的に分析・整理して新たな指導案を作成し、それを実践し、結果を客観的にまとめるフィードバックを繰り返しながら、自らの指導を高めていく実践力が求められている(5)。そして最後に、教育の進歩を考えるならば、先行研究や先輩達の実践を土台にして、自らの実践を振り返り、過去に確立された優れたものを取入れつつ、自らも常に新しい試みを行い、それを学問的に分析して報告する実践的研究者のレベルが求められる(6)。これらのいずれのレベルも教師の自己努力次第で達成できるものであるが、孤立感をなくして研究を持続し、極端な研究の偏位をなくするためには、教師集団や大学の研究者と連携をとりつつ進めることが望ましい。そして、研究成果は子ども達に如何に喜んでもらえたか、家族に喜んでもらえたかということの中核において、子どもの成長・発達における一援助者としての役割をどこまで達成できたかということによって最終評価すべきである。

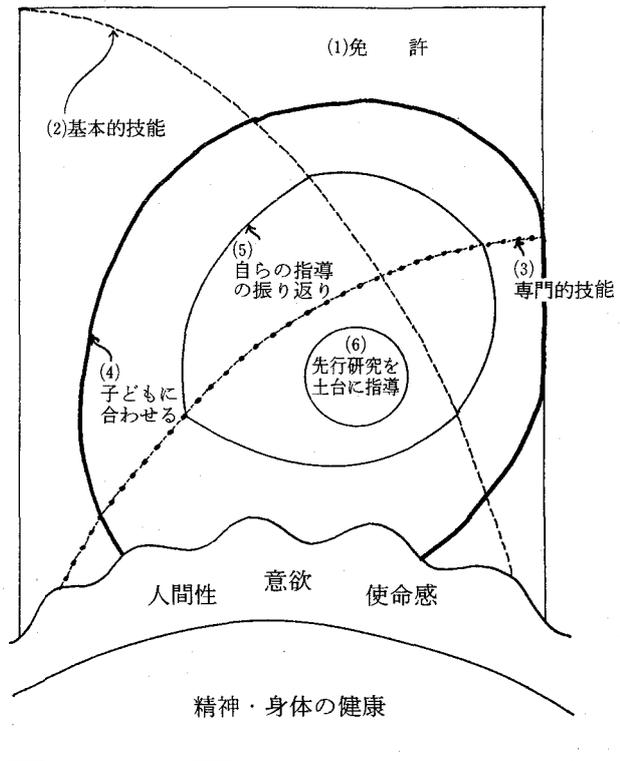


図. 望まれる教師像

## 謝 辞

校を終えるに当たり、本研究に関する多くの文献、著者を提供いただきました愛媛大学教育学部教授南本長穂先生に深謝いたします。そして、本研究のレポートを作成頂きました学生諸君にお礼を申し上げますと共に、まとめが遅くなってしまったことをお詫び申し上げます。

## 文 献

- 1) 教育職員養成審議会の答申. 教員の資質能力の向上方策等について. 1987
- 2) 東 洋, 中島章夫, 梶田叡一. 第3巻 授業の実践. 授業改革事典. 第一法規出版株式会社. 1982
- 3) 南本長穂, 松下準市. 小学校教師の資質形成に関する調査研究——教師のライフサイクルの視点から——. 愛媛大学教育実践研究指導センター紀要. 第5号: 121-139. 1987

- 4) 南本長穂. 中学校教師の教職意識に関する調査研究——資質能力に関する自由回答欄の分析を中心に——. 愛媛大学教育学部教育学論集. 第12号: 1-33, 1988
- 5) 南本長穂. 学校管理職のみた「若い教師」の資質に関する一考察. 日本教育経営学会紀要. 第28号: 79-94.
- 6) 南本長穂. 教師の専門的技能と教職意識に関する調査研究—第一次報告—. 愛媛大学教育学部紀要(第1部 教育科学). 29巻: 39-53, 1983
- 7) 南本長穂, 加野芳正. 生涯学習の視点からみた教師の学びの構造—小中学校教師の学習実態と職業的社会化—. 香川大学教育学部研究報告(第1部). 第79号: 59-95, 1990
- 8) 村上光朗, 加野芳正, 南本長穂. 退職教員の生活実態と学習活動—生涯学習の視点から—. 香川大学教育学部研究報告(第1部). 第79号: 97-136, 1990
- 9) 長尾秀夫. ライフサイクルを見通すための両親援助. 国立特殊教育総合研究所. 平成6年度特殊教育シンポジウム「コミュニケーション障害への援助」報告書, 58-63, 1995
- 10) 三上昭彦, 林量叔, 小笠原彩子. 子どもの権利条約 実践ハンドブック. 労働旬報社. 1995
- 11) 櫛田眞澄, 豊田康代. 教育学部大学生のイメージにみる教師像. 茨城大学教育学部紀要(教育科学). 第43号: 95-106, 1994
- 12) 稲井廣吉. 教育の学際的研究—8—, 児童生徒の望む現実的教師像—1—, 中学生の場合. 四国学院大学論集. 67: 223-244, 1987
- 13) 稲井廣吉. 教育の学際的研究—9—, 児童生徒の望む現実的教師像—2—, 小学校の場合—上—. 四国学院大学論集. 68: 109-138, 1988
- 14) 稲井廣吉. 教育の学際的研究—10—, 児童生徒の望む現実的教師像—2—, 小学校の場合—下—. 四国学院大学論集. 69: 151-180, 1988
- 15) 渡辺恭英. 心に残る教師——学生のアンケート調査にみる教師像——. 大分大学教育学部附属教育実践研究指導センター紀要. 第12号: 47-62, 1994